

中学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は全国・県より上回っている。
- 学習指導要領の領域別で見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」のすべてにおいて、全国・県より上回った。
- 「文脈に則して漢字を正しく書く」設問で全国・県より下回ったものがある。
- 問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」「記述式」ともに、全国・県を上回った。

【課題】自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。

1三は、スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く設問であり、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみるのが趣旨である。

本市では、国や県と同じように、正答の条件①「オンラインで離れた場所にいる人と会話をする」という部分以外を取り上げて解答することができていなかった。無解答率については、国や県よりも低かった。

指導のポイント

- 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるようになるために、次のような学習活動が考えられる。
 - ・ 聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなど、表現を工夫することが大切である。
 - ・ 話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動や互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。
 - ・ 事前に想定した話し方や内容だけでなく、うなずきや表情などという相手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉えて話すように指導することが大切である。また、相手に自分の意図が十分に伝わっていないと感じられた時には、分かりやすい語句に言い換えたり補足したりするように指導することも重要である
 - ・ ICT 機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりするなどの学習活動が考えられる。

関連

解説資料P16～18、報告書P24～29（授業アイディア例を含む）

中学校国語

【課題】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。

②三は、【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出し、引用する部分をかぎかっこ（「 」）でくくって書くことを求める設問であり、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にしてかけるかどうかをみるのが趣旨である。

本市では、国や県と同様に、資料の一部から適切な情報を抜き出し、「例えば、」に適切に続くように書くことはできていたが、引用する部分をかぎかっこでくくることができない割合が高かった。これは、小学校での既習事項である「引用」の仕方が定着していないことが考えられる。

指導のポイント

- 自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことや、適切な「引用」の仕方を定着させるために、次のような学習活動が考えられる。
- ・ 意見文を書く際には、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することが考えられる。
- ・ 資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合う学習活動が有効である。書き手は、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章が他者にどう読まれるかを自覚し、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得るように指導することも重要である。
- ・ 小学校の既習事項の「引用」について、どの程度定着しているのか実態を把握し、その上で報告文や紹介文などの言語活動を行う際に、「引用」の仕方を繰り返し指導し、定着を図るように指導する。また、国語科だけではなく他教科においても、他者が書いた文や、図表の内容を自分の書いた文章に取り入れる際に、「引用」が適切に行えるようにする。
- ・ 自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかを確認するなどの学習活動が考えられる。その際、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくように指導することが重要である。
- ・ 自分の考えを記述するに当たっては、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をしたり、読み手に分かりやすい説明を加えたりすることも重要である。

関 連

解説資料P23～27、報告書P34～41（授業アイデア例を含む）

中学校国語

【課題】行書の特徴を理解する。

4-1は、行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する設問である。行書の特徴を理解しているかどうかをみる趣旨である。

本市では、国や県と同じように3「㊦の部分」は、点画を省略して書くことができている。」を選択している解答が多く、行書の特徴を理解していないことが考えられる。

指導のポイント

- 漢字の行書の基礎的な書き方を理解するために、次のような学習活動が考えられる。
 - ・ 1時間あたりにノートに書写する文字量が増加する中学生の実態や、社会生活の中での文字を書く場面への対応として、行書を学習する目的（読みやすく速く書くこと）につなげ、理解できるようにする。
 - ・ 点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。
 - ・ 楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。また、字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方、点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。
 - ・ どのようにすれば行書の特徴を生かした書き方ができるのかを考えたり、日常生活を振り返りながら、行書の使用がどのような場面で有効であるかを考えたりするような主体的な学習がなされるように配慮することも重要である。
 - ・ デジタル教材等を利用し、行書の特徴が視覚的に分かりやすい教材提示を行うことも有効である。



関連

解説資料P35～36、報告書P46～48